

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900425		
法人名	社会福祉法人つくし会		
事業所名	認知症高齢者グループホームゆいとり		
所在地	〒021-0041 岩手県一関市赤荻月町17		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和6年10月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年9月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「利用者主体の普通の暮らし」「個人の人權の保護」「地域住民と、共生できるホーム」を理念としています。一関インターを下り徒歩5分ぐらいの場所にある白い建物が当施設です。隣には同法人のデイサービスセンターがあり、当施設の周辺には、コンビニエンスストア・イオン大型スーパー・薬局・飲食店やホテル等があり、日常生活に便利な場所にあります。施設の裏にアパートが建ち、景観は良くないが建物から田んぼが見え、少し足を延ばすと、ぶどう園、花畑があり季節が感じられます。利用者さんの健康維持や機能の低下防止に、ニギニギ体操・健口体操・頭の体操を毎日の活動に取り入れ楽しんで頂いております。また玄関先のプランターに野菜を植え、野菜の手入れや、収穫の楽しみを味わい生活に張りを与えられるように取り組んでおります。地域周辺の方々は、なじみの関係が出来支えられ受け入れて頂いております。また家族や、利用者さんの想いを汲み取りより良い信頼関係を築いていけるように努め対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、大型ショッピングセンターやホテル、事業所や飲食店等が近接する市街地にある。一方、周囲を田畑に囲まれ、近くの山沿いには神社などがあり、生活の利便性と自然を兼ね備えた恵まれた環境に立地している。隣接して同法人営のデイサービスもあり、その利用者や住民との交流を深めている。職員は施設の理念に基づき毎年それぞれ「個人目標」を立て、目標と実践を確認しながら、「連絡ノート」や「チェック表」を活用して利用者の情報をきめ細かく共有し、チームとしての介護に取り組んでいるほか、管理者との定期的な懇談も含め自由に意見交換するなど、職員相互の関係は良好で風通しも良い。ホーム内で利用者の誰でもが楽しめる活動(ゲーム、脳トレ、軽スポーツなど)や、出来るだけ安全を確保しつつ外出の機会を工夫するなど、常に利用者本位の支援を心がけ、継続していきいきと楽しく過ごせるよう、全職員が同じ目線で方向を合せながら、日々の業務に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3ぐらいの 3. 利用者の1/3ぐらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3ぐらいと 3. 家族の1/3ぐらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3ぐらいが 3. 職員の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3ぐらいが 3. 家族等の1/3ぐらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3ぐらいが 3. 利用者の1/3ぐらいが 4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームゆいとり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年、運営理念「利用者主体・個人の人權の保護・地域住民との共生」に沿って施設としての努力目標、実施細目や個人の目標を立て、目標達成に取り組んでいる。運営理念・努力目標は、食堂内に掲示し意識するように努めている。	設立当時に策定した理念に目を通し、全職員が理解、共有するなか、毎年度各職員が理念の下に個人目標を立て、理念に沿ったケアの実践に取り組んでいる。ケアプランの見直しの際などには、理念を確認するとともに、各職員の取り組みを書面で求め管理者としての考えを示すことも行っている。理念の見つめ直しの作業を行いながら、理念を理念のままで終わらせることの無いように、職員全員が目線とベクトルを合わせてケアの実践に当たっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染予防の為、祭りの参加や踊りのボランティアも中止になっている。雪かき作業や、施設前の道路の草刈りなど、都度協力を得ている。他にも季節の野菜や、手作りの干支の人形を毎年頂いている。また運営推進会議資料配布時、利用者さんも一緒に行き顔を合わせている。年6回の広報誌を発行し地区の回覧板で施設での様子をお知らせしている。4月と10月の一斉清掃時前に施設周りのゴミ拾いを予定している。	ホーム周辺の道路の草刈りや雪かき作業、採れたて野菜のお裾分けなど、地域から様々な支援をけており、地域の支援にどうお返しできるか悩む程である。地域の行政区長の配慮により、ホームの広報誌「ゆいとり」を回覧していただき地域の方々理解に繋げている。普段の挨拶は欠かさず、一斉清掃の際には職員のほか利用者も参加するなど、出来る限り良好な関係を継続出来るよう努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌「ゆいとり便り」は、年6回発行。利用者家族や地区の方々へ回覧板で回して頂いている。施設の活動状況を中心に認知症についての豆知識を掲載し、認知症の理解を深めて頂けるように発信している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年もつくし会の方針で感染予防の為に、運営推進会議資料の配布のみで終わっている。ご家族と運営推進会議の委員さんに、運営推進会議の開催についてや、利用者さんについてアンケートを行い意見を伺った、アンケート結果も配布している。令和6年度も開催来ていないが状況次第で開催していく予定である。	委員には区長、保健推進委員、民生委員、消防団、駐在所、一部行政組合のほか、利用者・家族にも依頼している。現在も書面開催となっており、利用者と一緒に資料を届けながら、意見も伺っている。今年度は委員に対するアンケートを行い「お手伝い出来ることがあれば遠慮なく話してください」などの意見を得ている。	対面での会議は、相互の様々な思いの交流の場ともなり、得られるものも大きいことから、隣接するデイサービスを利用するなど、工夫して年に1回でも参集での開催を期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導や、事故報告提出、看護師さんの入院時の医療連携についてや、ケアプランについてなど不明なことは、都度 相談に応じて頂いている。	コロナ禍以降、運営推進会議を含めて、市担当職員の施設への訪問は行われていないが、市が主催する会議には必ず参加している。事故報告や利用者に関する介護保険の届出等は、直接手交するなど市との関係は良好であり、相互の連携は十分に図られている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：認知症高齢者グループホームゆいとり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会は、年4回開催し実施(5月 8月 11月 2月予定)・身体拘束の研修も年2回実施(5月 11月予定)している。研修会では、全員がレジメを確認し、現在のケアが不適切な物でないかなど、感想を書いてもらい身体拘束について考える機会となっている。夜間は、防犯の為、外・内玄関の施錠を行っている。	適正化委員会は定例開催している。毎回交替制で担当を決め資料等を作成することで理解をより深めているほか、外部等の研修にも積極的に参加して利用者の支援に活かしている。現在は、全介助の2名と体調を崩している1名の利用者について、家族等の同意を得て、離床センサーを活用している。防犯や動物の出没対応のため夜間は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	人権擁護・虐待防止委員会は、年4回開催し実施(5月 8月 11月 2月予定)人権擁護・虐待防止の研修会も実施(5月 11月予定)全員でレジメを確認、感想を書いてもらいケアの確認をしてもらっている。スピーチロック等、職員間で気づいたときは注意し合い、必要な時は所長が注意し改善するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	虐待防止と一緒に、委員会を行い、研修会も行っている。レジメの確認と感想を書いてもらうことで、利用者さんの人権や尊厳について理解を深められるように努めている。成年後見人制度の対象者が1名おり後見人申請をする予定である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に十分な説明を行い、内容を理解・納得していただける様に努めている。介護報酬改定や、利用料改定は、感染予防のため郵送し承諾を得ている。医療的な面に対応できなくなり、退所となった際は、病院の医療相談員・御家族と密に連絡を取り、話し合いを重ね理解いただき円満に退所出来るように努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	感染予防の為、法人の方針で運営推進会議は資料の提出のみとなっている。状況に応じて施設開催を考えている。昨年度は、ご家族と、運営推進委員さんにアンケートを実施、施設の状況・意見などを伺い、アンケート結果も報告した。ご家族には、面会時や、電話で意見・要望を聞き、把握するようにしている。広報誌「ゆいとり便り」も、年6回発行し地域の方々に、理解を頂き、要望や気づいたこと等を、意見頂いている。	面会の際など、余裕をもって小まめに話を聞くなど、ご家族とのコミュニケーションを大事にしている。事業所の予定など、毎月のご家族への報告や利用者の状況等のお知らせは、様式を統一してお伝えするとともに、気がかりな点などについては、忌憚のない意見や要望を寄せてもらうようにしている。今のところ事業所の運営面についての意見や要望等は寄せられていない。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名： 認知症高齢者グループホームゆいとり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議では、行事の反省や次回に向けての取り組み・改善点を話し合っている。日常の職員の意見や提案・連絡等は、「連絡ノート」を用いて、職員全員が確認し内容を把握できるようにしている。今年度より生産性向上委員会年3回(4月 9月 2月予定)お便りの変更等話し合い統一した。	会議はなるべく多くの職員が参加できる日を選んで開催しており、議事録は全員で確認している。反省点や改善点についても自由に意見を出し合っている。「委員会が多すぎる」「家族への報告や資料の様式化」「夜勤のできる職員の増員・確保」など、多くの意見が出され議論する有意義な会議となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給や賞与・年次休暇があり仕事のやりがいにつながられている。勤務希望も可能な限り希望に沿うように組んでいる。両親や、子供さんの介護休暇も柔軟に取れるように調節している。体調不良時の勤務変更等も職員それぞれが「互い様」と、協力を得ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者研修、リーダー研修、認知症実践者研修参加予定。その他認知症チームケア加算の為、認知症について研修会に参加予定。その他職員に委員会を割り当て、リーダーとして委員会や、研修会を開催してもらい改めて学習し、気づきやケアの見直しができる良い機会となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で、アメーバ経営に取り組み、毎月事業所ごとの取り組みの発表と、年1回全事業所の年間を通した取り組みの発表会に参加し、意見や情報交換を行い、互いの施設のサービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に利用施設を訪問、または事業所に来ていただき、ご家族や、施設ケアマネに生活環境や体調面、生活歴など聞き取り、把握するようにしている。ご本人の不安のない様になじみの施設職員や、ご家族と一緒に話を聞き、意見・要望・想いを共感できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	都度相談に応じ、不安に感じていることを伺い家族の意向・要望・想いを共感できるように努めている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：認知症高齢者グループホームゆいとり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人の方針で施設内の見学もしていないが、パンフレットやゆいとり便り等で施設内の活動や様子を説明している。利用申し込み時家族から相談を受けた際は、地域や、同法人のサービスの紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれの力量に応じた活動、作業と一緒にしながらコミュニケーションをとり、都度感謝の気持ちを伝えている。作業も役割として習慣化され意欲的に行っている。他利用者が落ち着いた様子見られる時等、進んで「私見てるから仕事して。」と、見守り・声がけをしてくれることもあり助けられている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りに写真を添え、生活の様子や体調などをお知らせしている。体調に変化あるときは、通院の相談や通院後の報告等を行っている。利用者さんの希望時・またご家族からの電話があった際は、電話の取次ぎを行い交流できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナが5類になったとはいえ、施設内の制限はまだあり以前の状態に戻ることは難しい。しかし、そのような中でも定期的な面会の対応、近隣住民の方と散歩時に立ち話をするなどと、わずかな時間ではあるが交流を大切にしている。また「実家に行きたい」と言う利用者には、家族と相談し帰省の段取りを手配した。希望で周辺の散歩や自宅への外出等も行った。	殆どの利用者の馴染みは家族となっているなか、家族の希望により利用者の自宅へ外泊し、近所の方との関係継続の支援にも努めている。ホーム職員の小1の娘さんが時々来訪し、小さなボランティアとなって利用者と戯れ笑顔で交流している。新たな馴染みとして利用者、家族、職員にも好評を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの特徴や関係を捉えたうえで、座席や、居室の配置をするよう対応している。利用者の中で不満ごとがあれば、職員が傾聴し、一緒に解決策を考えるようにしている。廊下にソファや椅子を置き、利用者同士の交流の場としている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた利用者には出来る範囲で状態を伺ったり、ゆいとりでの様子や対応を詳しく伝えたりしている。また、入院退所となる利用者の家族には、特養への申請のフォローをしたり、病院とのやり取りの支援をしたりと対応している。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：認知症高齢者グループホームゆいとり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自身の主張が強い方が多いので、しっかり傾聴したうえで、なるべく本人の希望に沿えるよう対応している。 ケアプラン作成時はセンター方式や、ひもときシートを活用し生活状況・体調・表情・行動等の情報を収集し、ケアプランに反映させている。	自分の思いを話せる方が7名、2名は聞き方を工夫することで思いを把握することが出来ている。会話を通じて利用者の思いを把握することを基本にケアに取り組んでいる。センター方式やひもときシートの活用、入浴時のリラックスした際の会話などから利用者の思いや意向を把握し、「連絡ノート」に記載して職員間で情報共有し、ケアプランの作成などに反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には家族、入居前の担当ケアマネから、生活歴等の情報を詳しく聞いている。気になった点、分からない点はすぐ確認するようにしている。日常の活動や、言動から収集した情報は、業務日誌やノートを活用し、職員間で情報共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のコミュニケーションや活動の中から、出来る事、出来ないことを見出し、それぞれに合った過ごし方ができるようにしている。また、常に利用者と接することで心身の状態を把握し、日常生活の中で力が発揮できるように支援している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望・要望や必要な支援等を把握しケアプランを作成している。毎日のケア記録・ケアチェック表から毎月モニタリングとケアプラン開始の2～3ヵ月後には、中間カンファレンスを行っている。ケアプランは6ヶ月ごとに作成しているが、状態の変化に応じてプランの内容の変更を行っている。また、ご家族からの希望(散歩、外出・外泊)を、出来る限り叶えるようプランに組んでいる。	職員の負担も多いとしながらも、利用者毎に担当職員を決め、普段のケアやチェック表などを基に、毎月モニタリングの素案作成に対応している。ケアマネと他の職員も参加・確認・話し合いを行い、家族の意見も踏まえ3ヵ月後に中間カンファレンス(経過確認)、6ヵ月後に立替カンファレンスを行い、更新のケアプランを作成している。職員のほぼ全員がプラン作成に関わり、プランの内容を共有しあっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を観察・記録し毎日のケアチェック表で確認している。職員間の気づきや対応の変更・継続・工夫を連絡ノートや申し送りで情報共有し、意見交換・ケアの統一を図り見直しに生かしている。また、生産性向上員会を年三回開催し、ケアの向上を図っている。			

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームゆいとり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の状況から通院の支援(移送・同行受診・代理受診)、個別の買い物等を家族と相談しながら行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所にあるぶどう園でぶどうを購入している。お礼にと毎年ぶどうをいただいている。回覧板や運営推進会議の資料を配布する際、利用者と一緒に配布しに行ったり、職員の募集の際は周辺の看護師さんの情報を頂いたりした。併設されている施設からお茶会のお誘いがきて、数名参加され交流を楽しまれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、在宅時から継続している。現在家族対応は5名。出来る限り通院は家族対応をお願いしているが、家族の都合に合わせ職員対応で受診を行う場合もある。かかりつけ医が入院対応できなかった為、病院・家族と話し合い入院した病院に転院し、かかりつけ医を変更する事もあった。	利用者家族の希望するかかりつけ医を受診している。通院は、家族同行が5名で、職員同行が4名となっている。家族からの診察結果の聞き取りや家族への連絡を丁寧に行うとともに、その内容を記録して職員間で共有しあっている。普段は、職員の看護師(週半日勤務)のサポートを受けながら、適切な医療受診とケアする職員の安心にもつなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が週1回半日勤務なので、出勤した際は利用者の詳しい状態を報告し、必要な処置や通院するべきか否か相談し指示を受けている。また利用者の状態に変化がある時は電話で連絡を取り、必要時には通院や救急搬送の対応を行っている。体調が心配される場合には、家族に説明や相談を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院へ必要な情報を提供し、本人・家族が混乱しないよう支援している。家族・病院の医療相談員と連携し、退院後のケアや環境の整備等の対応をしている。また退院時、脂質制限の指示があった利用者には病院から栄養指導を受け、施設でも可能な限り対応出来るようにした。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームゆいとり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した利用者の家族へ、施設として出来る事、出来ない事を説明し、次の段階へ繋げられるように対応している。入院先の医療相談員と、利用者の今後についての対応や、家族へ助言やフォローを話し合った。 家族へ同じ法人内の特養へ申請の助言をしたり、相談員・家族と話し合い情報提供したりすることで、特養へスムーズに入所することが出来た。	事業所で急に亡くなり結果的に看取りを経験したことはあるが、事業所としての基本は、対応する医療機関がないことや職員の負担などもあり、看取りまでは行わないことで利用者家族等の同意を得ている。今、全介助が必要な利用者が2名いるが、家族もそのことを理解していただき、特養ホームへの転所を希望している。看取り対応が必要な利用者はいない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による緊急時、応急処置の対応、救急法講習を受講予定。急変時には、看護師に応援依頼し、指示や応急手当、救急車の搬送要請等の協力をいただいている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設されているデイサービスと年2回(9月、3月)合同で、総合防災訓練を行っている。裏の避難経路口にスロープを設置したが、雨、雪の際滑る危険性がある為、現在新たなスロープを作成・設置予定。 一週間分の水、非常食を備蓄しており、定期的に確認している。自動火災通報機の連絡網に地域代表の方を登録し、協力をお願いしている。現在地域近隣の方と頻繁に交流はないが、地震の際など様子を見に来ていただくなど気にかけて頂いている。	年2回、夜間想定を含め、隣接のデイサービス施設と合同で防災訓練を実施している。避難する場合はデイサービスの車両2台(車椅子にも対応)を利用して移動することとしている。食料や毛布などの備蓄は十分にあり、発電機の備えは無いものの、何とか石油ストーブで対応している。発電機と近隣の協力体制をどのように確保するかが今後の課題としている。	夜間で人がいないときの移動や、もらい火に対応するには、地域の支援協力を得ることが必要と思われます。協力体制の確保に向けて、まず事業所の避難訓練実施を地域にお知らせをすることから始めては如何でしょうか。実践を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の個性を理解し尊重したうえで、本人に合わせた対応をしている。トイレの誘導や入浴介助時には、羞恥心を感じさせないような声掛けをするように心掛け、プライバシーに配慮している。 どうしてもトイレの扉を開けたままにしてしまう利用者には、都度説明し、使用時は職員も気にかけている。	人格の尊重やプライバシーの確保はケアの基本と全職員が認識してケアに当たっている。ふらふらしながらお盆を運んでいる利用者もいるが、止めることでやる気を削がないよう、危ないときは傍で見守るようにしている。手をかけすぎことは、プライドを傷つけることに繋がることから、心配を無くすのではなく、心配をするがやる気を大事にして、利用者の生きがいを奪うことがないよう利用者一人一人の思いを尊重して対応している。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームゆいとり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とコミュニケーションを図りながら、思いや希望を聴き取っている。誕生会のメニュー、おやつ、飲み物の選択、出来る方には入浴の準備(衣類の用意)、毎日の活動ではドリル、塗り絵等の選択を日常で行い、利用者が選択しやすいような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体操、レク活動の声掛けをするが、気乗りせず居室で過ごされる利用者もあり、本人のペースで過ごしていただいている。玄関先での日向ぼっこや、廊下のソファで井戸端会議等それぞれが楽しく過ごせる場所があり、その時間を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や、行事の際には、その場に合った服装をさりげなく勧めている。毎日着替えをして洗濯をしたい利用者には、毎朝洗濯物がいないか声をかけている。 2カ月に1回なじみの床屋さんに散髪をしていただいている。1名はなじみの美容院で2カ月に1回パーマをかけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや苦手なものを考慮しつつ、メニューを提供している。月1回程度お弁当を頼むことがあり、他にもデリバリーフードを行事食として提供する事もある。 山菜など旬の食材を提供する際は、利用者に下ごしらえをしてもらったり、味見をしてもらっている。食後は食器拭きやお盆拭きをお願いし、その都度感謝の言葉をかけている。	当番の職員が冷蔵庫の在庫を見て、利用者の好き嫌いを考え調理している。職員会議がある日には弁当を外注し、丁度よいアクセントになっている。行事食や誕生会の食事大きな楽しみであり、利用者が皆笑顔で食事を楽しんでいる。それぞれ利用者は食材の皮むきや食器拭きなど出来る範囲で参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を意識し、お粥や刻み食など利用者の状態に合わせたメニューを提供している。毎日食事量、水分量のチェックをして、脱水や低栄養に注意している。また月に1回体重測定実施し、増減確認している。 同事業所の特養栄養士に、毎月献立の確認とアドバイスをいただいている。他にも食事に関してこちらから質問をし、回答をもらっている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：認知症高齢者グループホームゆいとり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は歯磨きの声掛けを行い、介助が必要な方には歯ブラシの準備や義歯洗浄を行い、口腔内の清潔保持に努めている。毎月口腔ケア研修に参加し、指導をしてもらっている。本人の訴え時には家族とも相談し、歯科受診を検討している。他、本人のペースに合わせた声掛けを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間とトイレでの排泄を基本としているが、利用者の状況に合わせて対応している。排泄チェック表から 排泄の間隔を把握し、定期的な声掛けやトイレ誘導で、パット確認・交換など出来ない部分を支援している。介護拒否のある利用者さんには、声掛けを工夫しさりげなく交換し、汚染状態の羞恥心を取り除くように努めている。R5年より、2名の利用者がリハビリパンツから布パンツに変え、生活している。	日中、夜間ともにトイレでの排泄を基本とし、プライバシーに配慮し、さりげない形での支援を心がけている。排泄チェック表により、利用者の排泄間隔を把握し、プライバシーを侵さないよう注意を払いつつ、声掛けや誘導を行なってトイレでの排泄を支援している。ポータブルトイレ利者はおらず、離床センサーは4名が利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に野菜・果物を多く使用し、食物繊維を取り入れるようにしている。ヨーグルト・牛乳等乳製品も毎日のメニューに取り入れて提供し、便秘予防に努めている。便秘症状の強い方には、オリゴ糖や処方されている薬を服用して頂き、排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回入浴して頂いている。できる限り希望があれば対応している。入浴を好まない方には、声掛けの工夫や時間をおいて再度、誘うタイミングを計りながら対応している。体調不良時や、塗り薬の処置などある場合には、清拭や足浴等を行っている。	日曜日も含めて毎日、入浴は可能であり、概ね午後に3人程度入浴しながら、利用者は週2～3回のサイクルで入浴している。季節には柚子湯や菖蒲湯も行っており、入浴しながら一人で歌を歌う方がいたり、職員と一対一になる機会を利用して、自分のことを色々話す利用者も多く、それぞれに入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は、各居室や他にそれぞれ居心地の良い場所(小上がりや廊下のソファ、玄関椅子等)でゆっくり休んで頂いている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームゆいとり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で服用している薬について確認するように努めている。薬の変更時には、用法や副作用等注意すべき事を連絡ノートや申し送りで確認し、職員全員が把握して看護師・医師への経過報告、相談で薬の調整等の指示を受けて様子観察を行っている。薬の効能など疑問がある際、協力関係にある薬局に相談する時もある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力量に合わせ、洗濯物干し・洗濯物たたみ・食事の準備・片付け等の作業を行って頂いている。また自分で塗り絵の道具を出して行ったり、チラシでゴミ箱を作ったり、季節の花を生け水を代えたり等、自発的に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人からの希望は少ないが、外泊や馴染みの美容院や、通院後の外食など、家族の責任の下、柔軟に対応している。玄関先には、プランターに花や、野菜を植え、草取りや、野菜の収穫を楽しんで頂いている。また個人的に近くの自動販売機へジュースを買いに行ったり、カワチで日用品の購入を一緒に行き好きなおやつを購入するなど出来る限り外に出る機会を作っている。	普段には近くの自販機でジュースを買ったり、野菜を植えているプランターの手入れをしたり、遠出は難しいが近場で外を歩くことで楽しんでいる。十分な感染対策を講じながら、デイサービスの車両2台を利用して、お花見や新緑、紅葉刈りなど、季節ごとに工夫しながら出来るだけドライブにも出かけるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が難しい方が多く、施設で金銭管理を行っている。家族からの入金の際は出納帳を確認して頂き、預かり証(領収証)を発行し渡している。本人に頼まれたものは職員が対応し購入している。個人的に一緒に買い物に出かけ本人の好きなものを購入できるように声掛けを行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、職員が家族との電話の取次ぎをして交流できるようにしている。また手紙や、荷物の受け渡しをし、友人との交流を続けられるようにしている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホームゆいとり

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が集う食堂や、洗面所に季節の花や、室内装飾・カレンダーをかざり、季節を感じられる環境づくりをしている。各居室にエアコン・換気扇設置、廊下にはエアコンの他、扇風機と、加湿器を設置し湿度・温度の管理を行っている。廊下の窓からは、田んぼが見え、田植えや稲刈りの作業を見ることが出来、皆さん季節の移り変わりを感じている。	窓から明るい日が差し込む中、隣接するアパートに巣を作りあちこち飛び回るツバメを見ることが楽しみにになっている。広々とした田んぼが見えるソファは利用者で取り合いになるほど人気である。共用スペースにすることが多い利用者は、職員と一緒に切り絵や貼り絵作り、簡単な片付け掃除など、利用者が一日を過ごす居心地の良い場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者さんを同じテーブルにし 過ごしやすくしている。廊下に長椅子、玄関にも椅子を設置し好きな時に外を眺めたり、数人で会話しながら日向ぼっこを楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはアルバム、家族の写真、カレンダー、塗り絵の作品が置かれている。寝具類は、自宅で使用していたものを持参して頂いている。家具の設置も、利用者が動きやすいように設置している。友人から送られてきた作品も居室の見える場所に飾っている。	居室にはベッドとタンス、カラーボックスが備え付けられ空調も快適である。その他利用者がそれぞれ思い出の品等を持ち込んで好みの場所に置いたり掲げたりしている。以前の利用者には、大正琴を持ち込み部屋で奏でたりする方もいた。猫柄の靴下、クッション、タオルなど猫づくしを楽しんでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの能力を把握し、居室やトイレの場所やタンスの引き出しの中身がわかるように表示している。転倒が考えられる方には離床センサーマット+マットレスを敷、骨折等の事故防止を行っている。夜間は居室に足元ライトを使用し、転倒防止の対策をしている。		